

リーディングDXスクール事業【実践事例】

興本扇学園 足立区立興本小学校

【取組内容②】 第4学年国際コミュニケーション科「東京の魅力伝え隊」滋賀県の小学校とのオンライン交流授業

4年生国際コミュニケーション科「東京の魅力伝え隊」では、社会科で学習した内容を活用して、東京の特長や魅力についてプレゼンテーションを行った。4年生で学習するそれぞれの都道府県の様子について、滋賀県湖南市の学校と交流することで、お互いの共通点や違いに興味をもって聞き合うことができると考えた。4～5人のグループで共同編集しながらGoogleスライドによる発表資料を作成した。オンラインでGoogleスライドを画面共有しながらプレゼンをするのは初めてであった。また、事前に顔合わせ交流を行い、Formsを使って相手が知りたい内容を把握させることで、それに応えようと準備する様子が見られた。事前リハーサルでは、お互いの発表を聞き、感想やアドバイスを入力するFormsを使ったり、発表の様子を動画で記録して確認したりすることで、より伝わりやすい発表を目指すことができた。交流当日は、発表内容についての質疑応答に加え、お互いの学校や地域の様子の情報交換も行うことができた。



成果

- ・事前に相手と交流をし、質問したいことのアンケートを取ることで、相手のことをより意識した準備ができた。
- ・小グループ同士で、同時に交流させることで、児童一人一人の活動量が確保され、主体的に取り組ませることができた。
- ・リハーサルでの感想・アドバイスをFormsで文字として残し、記録動画と見比べることで、自分のプレゼンの姿を客観的に捉え、改善することができた。
- ・事前・事後ともに相手と質問や感想をやり取りすることで、有用感や達成感を感じさせることができた。

課題

- ・相手校と綿密な事前の打ち合わせや準備が必要である。
- ・自治体ごとのタブレット端末が異なることにより、画面が共有ができないなどトラブルがあった。
- ・児童に使わせたアプリケーションの数と種類が多すぎるため、児童の負担となった。
- ・つながる相手の定着のために手立てが必要である。